

ひと・まち広島未来づくりファンド

第15回(平成29年度)助成団体の活動成果について

平成30年5月12日(土)に開催の成果発表会にて、各団体による活動成果の報告が行われました。

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助 成 団 体 部 育 成 門 成	白い杖SOSシグナルをひろめる会広島	白杖SOSシグナルを広め視覚障害者の事故をなくす	4.4万円
	ひろしま相続・後見サポートセンター	相続・後見無料相談会及び公証人講演会	3.3万円
	計 2団体		7.7万円
ま ち づ くり 活 動 発 展 助 成 部 門	真亀一丁目花の会	団地を花いっぱい	12.2万円
	広島湾岸トレイル協議会	広島湾岸トレイルの広報、開発、維持管理、運営	46.2万円
	黄金山さくらの会	黄金山のさくらを維持・再生させよう。「さくらの博物館」にしよう	12.8万円
	アリスガーデンパフォーマンス広場事業 実行委員会	広島インディーズの祭典 INDIKET' 17	35万円
	影絵ユースワークショップ	「小さな祈りの影絵展」	33.2万円
	特定非営利活動法人 虹橋の会	会の設立15周年を迎え、更にまちづくり・国際交流活動が続く	31.7万円
	笑顔つながり隊	子育てと健康と地域をつなぐ活動	35.2万円
	特定非営利活動法人 NPO狩留家	狩留家のまちづくり	40.4万円
	牛田三学区活性化フォーラム	牛田かうちゃんまつり・スタンプラリーの開催	47.5万円
	ひろしまSUPクラブ	MIZBE活性化大作戦	42.4万円
	計 10団体		336.6万円
	合計 12団体		344.3万円

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	白杖SOS信号を広め視覚障害者の事故をなくす
②実施期間	2017年 4月 1日 ~ 2018年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 白杖SOS信号をひろめる会広島 協力 広島市社会福祉協議会、市内の視覚障害者団体
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 市内の公民館祭、福祉祭などに参加し、パフォーマンスを交えて啓発活動を行っています。 ポスター、チラシを作成して市内各地に掲示させていただき、SOS信号を認知してもらうよう努めています。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 白杖そのものに対する認知度が低く、また視覚障害者に対する接し方が解らないと言われる方が意外に多いことに気づきました。今後は私たちの方から援助してほしい内容を発信していくことも考えています。 さらに小中学校の福祉学習において子供さんたちへも啓発を呼びかけていきたいと思います。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

（１）活動報告

①名称／テーマ	設立２周年記念講演会・相談会
②実施期間	２０１７年 ９月 ２４日 及び ２０１７年 １１月 ５日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） 主催 ひろしま相続・後見サポートセンター 共催 阿品台市民センター 協力 沼田公民館
④内 容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） 廿日市市阿品台市民センター（９月２４日講演会・相談会）及び 沼田公民館（１１月５日講演会・相談会）において 弊ＮＰＯ法人の設立２周年記念講演会・相談会を開催する。 テーマは第一部「公証人の役割、公正証書の必要な場面・手続きについて」、第二部「相 続・遺言・成年後見制度についての基礎知識」で、講師は第一部が広島公証人役場所属 の見越正秋公証人、第二部はＮＰＯの理事長で行政書士の山城光義及び同じく行政書士 の佐々木正則が行った。 対象者は主に５０代～８０代のシニア世代で実際に参加された方々参加者の９０％が シニア世代であった。 参加者数は阿品台市民センターでの講演会・相談会が５５名で、沼田公民館での講演 会・相談会が１２名であった。
⑤今後の課 題・展望	（上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など） 阿品台市民センターでの講演会・相談会には多くの方が参加していただいたが、沼田 公民館では阿品台市民センターでのものと比較して参加者数が少なかった。これは阿品 台市民センターでの講演会・相談会は弊ＮＰＯとの共催であったが、沼田公民館では共 催にしていただけず、公民館だよりに掲載していただくなどの広報が十分なものにならな かったことが要因と考えている。 やはり設立から２年半しか経ていない我々のようなＮＰＯは活動を十分にできていた だけではないことを実感した。しかし参加者アンケートを見ると参加者の多くは満足し ており、今回のような相続や後見に関する講演会・相談会は地域の方々のお役に立っ ていると実感したので、来年度以降も行っていきたい。特に広島市内中心部方離れた地域 の公民館では今回のような講演会・相談会は行われていないので積極的に行っていきた い。それが我々の活動を知っていただくきっかけにもなるので。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	団地を花いっぱい
②実施期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 真亀一丁目花の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1 花づくりを通じて地域との交流 (1) 地元の真亀保育園児の皆さんと一緒に花の植え付け 寺迫公園にペチュニア(300 株)を 5 月 17 日に実施 共同管理花壇にサンパチェンス(50 株)とポーチュラカ(200 株)を 6 月 2 日に実施 (2) 高陽絆まつり会場にプランターの提供 花の会が育てたサルビアとポーチュラカを合わせて 34 鉢(170 株)のプランターを祭り会場のメインステージに提供した。祭りの後は、プランターを保育園と地元の寺院に提供した。寺院ではお盆の参拝者に喜んでもらった。 2 花壇の運営 (1) 共同管理花壇(約 3 0 0 m²) 夏季(5～11 月) サンパチェンス 50 株 リビングストンデージー120 株 ポーチュラカ 300 株ほか植え付け 冬季(12～4 月) 葉ボタン 360 株 パンジー330 株ほか植え付け (2) 自主管理花壇(約 1 0 0 m²) 7 ブロックの独立した花壇にそれぞれの管理者を決めて自主管理している。 各自、季節に合ったお花、サルビア、マリーゴールド、ペントス、ペチュニア、サフィニア、葉ボタン、パンジー、ビオラ、シクラメンなどを植え付け管理。 3 空き家の剪定と除草 町内に 10 年以上空き家の家があり、雑草で近所の家が害虫と蚊の発生、枯れ草からの出火に心配されていたのを、花の会の仲間できれいに剪定と除草をした。 4 道路法面の除草 団地の環境美化対策として、花壇に隣接した約 4, 0 0 0 m²の法面の除草を例年通り今年も年 4 回、5, 7, 9, 11 月とボランティア活動として実施した。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1 花づくりを通じて、園児や祭り会場での地域の皆さんとの交流は、やさしい心を育む機会や土や花に触れ生育する楽しさを提供できたと考えている。 2 花づくり活動で培われた会員相互の連携は、高齢化が進む地域内の声掛け、助け合いなどに繋がるこれからの町おこし活動と考えている。 3 通勤、通学、ウォーキングの人達に毎日手入れの行き届いた花壇を見てもらい、「いつもきれいなお花を見せてもらって元気になります」とお礼の言葉をかけてもらっている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1 花壇は、道路沿いのため歩行者はもちろん車の中からも良く見えるように、花の配色配列にインパクトを与える工夫している。 2 一部の花苗床にヨシズを張って、苗の雨からの保護、夏場の地温抑制をしている。また、夏場の猛暑対策として、遮光ネットを花壇の両側に木杭を打って取り付けた。 3 昨年12月に植え付けた300本のサクラ草が、今年(30/1～2月)に入って全滅した。原因は不明であるが、厳寒によるものか水やりが不足したのか専門家に相談してみるつもりでいる。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1 上記のサクラ草は、プランターによる自家育苗である。花によっては、種からの育苗も自分たちの力で可能なことが解ったので、これからは挑戦してみたい。 2 花づくりは、花の種類によって水やり、日除け、肥料、摘花等それぞれに合ったやり方があるが素人集団のため失敗が多い。経験も積んできたが、研修会に積極的に参加して、会員相互の知識の向上を図るつもりである。 3 「花づくりで町をきれいに」は広島市の方針である。花を作っている市民として、広島市は積極的に遊休地の活用を図るべきと考える。高齢化が進む時代です。老人力を活用して、防災など行政上問題のない遊休地にきれいなお花を植えたらいと思う。老人の生きがいと息抜きと憩いの場が形成できるが、現状では市有地の占用許可は「あれもダメ、これもダメ」とあまりにも閉鎖的である。許可が出れば、団地の中に、芝桜や菜の花畑、コスモス畑も夢ではない。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	広島湾岸トレイルの広報、開発、維持管理、運営
②実施期間	2017年4月1日～2018年3月24日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) (主催) 広島湾岸トレイル協議会、(後援) 日本ロングトレイル協会、(後援) 広島県、広島市、呉市、廿日市市、江田島市、府中町、海田町、北広島町、坂町、熊野町、広島観光コンベンションビューロー、(協賛) 好日山荘、モンベル他
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・記録期間：2017.4.1～2018.3.24 実施分 ・トレイル体験会：体験会 no10、no13、14/広島市、no15～18/廿日市市、no19～no22/呉市、no23～no26/江田島市、no27～29/広島市…一般市民対象/18回実施。 ・草刈隊（踏査&整備）：no20、21/呉市、no22、23/江田島市、no24～26/広島市、no1～5/呉市、熊野町、坂町、海田町、no6～8、13、14、28/広島市…協議会会員と一般市民対象/18回実施。 ・安全登山推進講座：広島市の公民館（二葉/2回、可部/2回、船越/2回、古市、鈴ヶ峰、亀山）…協議会会員と一般市民対象/9回開講。 ・探査&踏査活動：備前坊山新ルート/広島市、府中ルート/府中町…協議会会員と一般市民対象/9回実施。 ・整備活動：(機器) 二艘木集落跡/坂町…協議会会員・山整備団体、/2回実施。 ・クリーンアップ&ウォーク（TC1000）：HWT山域35会場・広島市、呉市、廿日市市、江田島市、海田町、北広島町、熊野町、坂町…協議会会員と一般市民対象/1回実施 ・HWT説明会：原則月1回実施/広島市…一般市民対象/14回実施。 ・講演・出展活動：出展4回、講演3回/広島市5回他2回/一般市民対象/7回実施。 ・サポート活動：灰ヶ峰休山縦走大会/呉市、可部連山トレラン大会/広島市/協議会会員対象/2回参加。 ・交流会：各地の協議会所属山団体所在地/協議会会員と一般市民対象/7回実施

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・広島湾岸トレイル協議会発足以降に3団体が加入し、27団体(1,740人)となり、特に個人参加も目立ち始めた。又、観光協会の入会があった。 ・高松から瀬戸コースを日30.3.17~8回で毎回20人が参加することが確定した。 ・各地から全踏破を目指したトレkkerが目立ち始め、各地から来訪者が日を追って増えて来たとの報告が相次いでいる。 ・国交省国土地理院から「山道の地図づくり」の協力要請があり、連携して協力する事とした。作図完了時に「広島湾岸トレイル」と地図に記載するよう要請した。 ・朝日、読売新聞の全国版や、山の代表的雑誌「山と溪谷」等に大きくも紹介された。 ・広島湾岸トレイルに次いで、HWTのロゴマークが商標登録された事から、スポーツ用品メーカーがHWTブランドを製造、発売する方向で試作品づくりに着手した。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・記録期間:2017.4.1~2018.3.24 実施分 ・トレイル体験会:18回開催、一般市民545人(定員540人)、スタッフ61団体163人が参加して実施した。3/24で1年6ヶ月の全29回の体験会は無事完了した。 ・安全登山推進講座:9回開講、一般市民161人が受講した。 ・巡回-踏査&整備活動(草刈隊):18回実施、68団体+市民の213人が参加した。草刈隊は2回目であり、一般市民の参加が目立つようになった。 ・体験会、安全登山推進講座、草刈隊、探査&踏査、HWT説明会、交流会、整備、講演&出展、サポート活動(全活動回数85回)とも全て予定以上の成果を上げた。 ・TC1000:1000人参加のクリーンアップウォークは、広島県の山の日と競合した為か、参加者が677人に留まり、予定を下回った。来季は秋季開催を目指す。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・広島湾岸トレイルのブランド化を目指す:これまでの基本的な活動を更に充実させ地域に愛される、地域と一体となった広島湾岸トレイルを目指す。 ・1人100m草刈運動:この広報活動を更に強化し、市民3,000人の協力を得たい。 ・100円募金:資金確保の1方法として広報活動を更に強化したい。 ・HWT沿線での「おもてなし文化広島版」と「歩く文化」の促進&定着を目指したい。 ・最大の問題は「活動資金」の確保だが、市民力3,000人が結集すれば、トレイルの維持管理は可能だと確信している。広島スタイル、広島モデルが必ずや次世代には必要不可欠なスタイルであり、モデルだと信じて永続的な活動を続けたい。 ・群馬県が開発を進めている「群馬県境稜線ロングトレイル(100km)」に、群馬県は1億円/年の予算、「白山白川郷トレイル(100km)」には白川村が1千万円/年、「山陰海岸ジオパーク(40.7km)」は鳥取県、「高島トレイル」は高島市からの予算で運営されている。この他大方のトレイルは行政が地域起こしの為に多額の予算を組んで、標識、看板、地図、パンフレットや維持管理等の費用をまかなっているが、広島湾岸トレイルは「市民が立ち上げ、市民が開発し、市民が運営する」唯一の希少トレイル。市民力を結集して「市民の、市民による、市民の為のトレイル」を目指すことで、圧倒的な資金不足(他トレイル比較)の面を補いたい。その為の絶対的必要条件は、地域に愛されるトレイルであること。基本的な活動を更に、より充実、整備して地道な活動を続けながら、何時の日か来るだろうオール広島で、その目的を果たしたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

（１）活動報告

①名称／テーマ	黄金山のさくらを維持・再生させよう。「さくらの博物館」にしよう
②実施期間	平成29年 4 月 1 日 ～ 平成30 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 黄金山さくらの会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 黄金山の桜は黄金山の頂上にテレビの送信所が建設されることになり、その工事用道路が建設されるに伴い、昭和34年地元の住民により4000本の桜が植樹されました。しかしその桜をも植樹後60年経過し、老化が目立ってきました。 その桜の手当てをすると共に、地元の小学生により、新しい桜を植樹することで黄金山のさくらを再生。そして黄金山を「さくらの博物館」にするため、今年度は「天の川」を植樹しました。 又、黄金山は標高が221m有、広島市内及び広島湾の展望が非常に良い場所ですが戦後、雑木の伐採等は行われず、折角の展望が台無しの状態でしたが、今年度大規模に雑木を伐採しました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 黄金山の頂上付近の桜の老木はかなり整理され、新しい桜に代わりました。また桜「天の川」が植樹され、黄金山に植樹されている桜は17種類になり、いろんな種類の桜がみられるようになってきました。 展望第周辺の雑木を伐採したため展望が良くなり、NHK とフジテレビの2社のテレビ局による、撮影が行われました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ソメイヨシノは黄金山小学校の生徒に10本植樹してもらいました。 雑木の伐採で黄金山からの展望は非常に良くなりました。 今年度「天の川」と「広島江波山桜」を植樹予定でしたが、「広島江波山桜」は手配出来ませんでした。 「広島江波山桜」については中区役所に相談、江波山にある「広島江波山桜」のクーロン桜から取り木をする了解を得、現在段取りを行っています。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) まだ60年前に植樹された桜の再生は完了していません。これからも継続して作業を行いたいと思います。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	広島インディーズの祭典 INDIKET' 17
②実施期間	平成 29 年 6 月 1 日 ～ 平成 29 年 11 月 30 日
③実施主体	主催：アリスガーデンパフォーマンス広場事業実行委員会 協力：広島市中央部商店街振興組合連合会、(株) ステージユニオン広島、ライブ楽座、cocoro-to プロダクション、NPO 法人セトラひろしま 事務局：NPO 法人セトラひろしま内
④内 容	参加アーティストの公募及びイベント「INDIKET' 17」、「IndikeTV」の実施 ●「INDIKET' 17」☆日時：2017 年 9 月 17 日(日)、18 日(月一祝) 2 日開催 ☆会場：広島市中区アリスガーデン、並木通り ☆対象者：不特定多数 ☆内容：自主制作作品のマーケットとプロモーション・ステージ ◎エントリー部門〈音楽部門・アート部門・パフォーマンス部門〉 ◎プロモーションライブステージの展開：◎音楽部門（アーティスト 22 組の参加）& パフォーマンス部門（アーティスト 2 組の参加） ○9 月 17 日(日)@ライブ楽座（台風のため会場を変更して実施）＊来場者：80 人（天候：雨） ○9 月 18 日(月一祝)@アリスガーデン＊来場者：4,800 人（天候：晴れ） ☆物販ブースの展開@アリスガーデン ◎アートマルシェ” INDIKET in Namiki” の展開 ○9 月 18 日(月一祝)@並木通り歩道上＊来場者：3,800 人 ＊アート作品、ハンドメイドグッズ他のブース展開（アーティスト 8 組の参加）＊並木通り商店街振興組合との共催 ●「IndikeTV(インディケーター)」【イベント終了 1 ヶ月後のポストイベント】☆日時：10 月 17 日(火)18：30～21：00 ☆会場：ライヴ楽座 ☆来場者数：51 名 ＊招待プロモーター：夢番地、キャンディープロモーション、ユニオン音楽事務所 【第一部】①IndikeTV：Indiket2017 の VTR documents のビューイングを行いながら、MC 石澤良一と TOMOT が解説、コメント、トークショーを繰り広げた。 ②” Award for the artist of bright future” の表彰 （4 組：「夢番地」推薦：佐々木隆宏・「キャンディー・プロモーション」推薦：柔和智也・「ユニオン音楽事務所」推薦：めぐ・「Indiket」プロデューサー推薦：宗一郎）【第二部】①表彰アーティストによるライブ（4 組）②招待プロモーターによる総評

⑤実施効果	参加アーティストにとって、不特定多数を前にして、その力量が試されるといういい機会となった。将来の市民文化を担う人材の育成とともに、街のにぎわいの仕掛けとしてまちづくりに貢献できる内容となった。プロモーターとのマッチング・チャンスを演出できた。プロのプロモーターが広島音楽シーンの層の厚さを評価！
⑥ 目的の達成状況	イベント1日目は台風で来場者は少なかったが、2日目は多くの来場者を迎えた。今回初の並木通りでのマルシェ展開も好評だった。今回はアート部門、パフォーマンス部門の参加が少なかった。これは、現状、参加アーティストとの連絡や交渉と、事務局作業が負担となり、募集の声かけにおいて力不足となったためである。プロのプロモーターが広島音楽シーンの層の厚さを評価！広報に関し、地元ケーブルテレビの取材があり、イベントの様子が放映され反響があった。
⑦ 今後の課題・展望	事務局体制の強化。表現者支援のインパクトのある方法の開発。より一層のメディアとの連携、プロモーターとの連携

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	小さな祈りの景絵会展
②実施期間	2017年4月1日～2018年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 景絵ユースワークショップ^o 連携団体 広島女学院中学高校・広島城北中学高校・なごさ中学高校、 広島学院大学 比治山大学他
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 2017年8月5・6日の「小さな祈りの景絵会展」の野外展示に向け、作品作成を行ない、その後は巡回展示を行なった。また2018年1月にはハワイのフナホウ学園で2回目の景絵を用いた平和の授業を行なった。 作品制作 (4月～8月) 4月に運営部でミーティングを行ない5月から参加中高生と共に作品を制作した。6・7月中の土日を中心に作業日を決めた。主な作業会場は中核町集会所で計10回以上。今年度の作品のテーマは「産業奨励館」とし、原爆のおちる前の私たちがあまり知らない日常を景絵にけ。制作の際は公文書館などから資料を集めた。 野外展示 (8月5・6日) 元安橋車詰の駅で作品を展示した。5・6日共に多くの方が展示に興味深そうに見てくれ、特に制作に参加してくれた園児の子どもたちが「これ作ったー!」と楽しそうにしていた。また、2017年1月にハワイフナホウで景絵の制作に生徒たちが6日に参加してくれた。英語だけでなく日本語で自分の作った作品を解説してくれ、また平和の願いをこめたパフォーマンスを演奏した。 巡回展示 参加学校(中高3校、幼稚園3園、大学1校) 老人ホーム ゆい(オーと、ひとまちネットワークプラザ) など ハワイ・フナホウ学園 2018年1月9～12日に景絵を用いた平和の授業を行ない、42人の生徒と共に景絵を制作した。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ①日常がそこにはあったと実感。 今年のテーマの「産業奨励館」は、現在の「原爆ドーム」としての姿が有名だが、昔の姿特に内音階がどんなだったのかは知らないのではないかと考え、決定した。制作した中高生も初めて知ったことばかりとの感想があった。被爆者の方にも作品を見ながら「ここはなくてよく展覧会があったのよ」と教えてくれた。証言や記憶が風化の中で、継承の一つとなった。 ②「ハワイとの交流」 去年からハワイと関わりを多く持ちはじめたが今年度は作品の行ききだけでなく、人の行き来もあった。その際にはハワイからの生徒と平和公園や資料館を訪れ交流した。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 歴史も長くなり、OB、OGが多くなってきた。8月5・6日の展示の際も「今年も良いね、もと話し方を工夫してらん」と毎年見に来てくださる方からの声かけも多くあった。活動が広く知られていっているのを実感した。また今年度はじめて見たという方にも説明し、興味を深くまいてくださった。初めて見てくださった方が「知りませんでした。今の姿しか知らない」と感想。そのべらね、まかけづくりになったと実感。まかけづくりにという目的は多くの人に対して達成されたと考える。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 課題 ○新たな運営メンバーの確保 大学4年生の運営メンバーが多く、今後の引き継ぎに課題が残る。各学校での声かけ募集を改めて集め、ゆいぽーとなどの施設などを利用する団体に協力を求める。 ○テーマの深め方 証言集などから影絵作品を主に制作しているが、テーマが以前のものと似てきている。新たな角度からの切り口が必要。 追加活動 ○作品集の制作 これまでの作品を記念冊子として形にしたい。歴史のある活動となってきた今、これまでの活動全体を見ることが身近な幸せをより感じたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	「会の設立 15 周年を迎え、更にまちづくり・国際交流活動を続ける」
②実施期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 特定非営利活動法人 虹橋の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法： 一、公益信託広島市まちづくり活動支援基金第 15 回助成事業の助成金を活用し、事業を行った。 1、日頃作った多姿の折り鶴を、昨年の 4 月中旬から約 2 週間、袋町市民交流プラザ南棟 1 階ロビーにて展示した後、「原爆の子の像」へ捧げた。 2、熱心な方から協力を得て、広島市立幟中学校・広島市立山田小学校・廿日市市立佐方小学校と連携し、日本伝統和紙ちぎり絵や中国伝統剪紙を体験した。 3、当会の親子会員に、画き・切り絵・和紙ちぎり絵・クリスマスツリーなど、様々な作品を体験させた。 4、中央公民館で開催している各教室は、予定通りに運営してきた。中国帰国者の大人向けの日本語教室で習う内容が、できるだけ帰国者のレベルに合うような教材を作ってもらって、太極拳・手芸・折り鶴などの教室にも楽しんで参加している。 5、会の袋町市民交流プラザで開催している和紙ちぎり絵教室はスムーズに運営している。 二、社会貢献活動及び他団体が主催する事業に協力・参加し、会の紹介も行った。 1、「袋町市民交流フェスタ」(10 月 14-15 日)に参加して、会の活動宣伝及び、手芸製品・中華食品の売りもあった。 2、「重慶の日」(10 月 21 日)に、実行委員会の一員として参加し、会の活動を写真で紹介や会員たちと重慶市の中学生らが作った折り鶴と和紙ちぎり絵を展示し、和紙ちぎり絵の体験コーナーを設けた。直接松井市長と話ができて、励みになった。 3、「国際フェスタ 2017」(11 月 19 日)に参加し、和紙ちぎり絵・折り鶴を体験し、会の活動を写真で公開し、日頃習得した太極拳をステージで発表及び屋台でバザー売りもあった。 4、「中央公民館祭」(3 月 3-4 日)に参加し、太極拳・太極扇を演武し、手芸品の販売と会の活動写真と作った和紙ちぎり絵や折り鶴などの作品をパネルで宣伝した。 5、まちづくり市民交流プラザが主催する「生涯学習成果発表事業・学びの交流作品展」(2 月 24 日～3 月 4 日)に、和紙ちぎり絵を展示し、体験コーナーを実施した。 6、中央公民館が主催する月 1 回の「ほのぼの基町和紙ちぎり絵グループ」が、今年 3 月で設立 10 周年を迎え、ボランティアとしての講師と皆は一緒に頑張って、地域住民との和やかな生活環境づくりや伝統ちぎり絵の伝承には少しでも役立った。 三、中国山東省の 2 か所大学へ和紙ちぎり絵と折り鶴を広めた(10 月 9 日～13 日)。 1、山東師範大学美術学院 2、青島濱海学院美術系 テーマ：「和紙ちぎり絵・折り鶴を中国へ広めて、平和を祈る」 活動地域・会場： 活動地域：広島市・廿日市市内及び中国山東省 会場：広島市中央公民館・広島市留学生会館・広島市袋町市民交流プラザ・広島平和文化センター・広島市立幟町中学校・広島市立山田小学校・廿日市市立佐方小学校・ほのぼの基町事務所 他 対象者：一般市民、中・小学生、中国帰国者 1 世～4 世、中国人大学生・講師

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 成果・効果: 1. 折り鶴の作成及び捧げることで、中国帰国者たちの「平和守る」・「核兵器廃絶」の大切さが、改めて認識した。 2. 親子が参加した活動で、親同士の情報交換、子どもたちの友情も促進した。 3. 中国帰国者の大人達は、日本語をもっと習い、日常用語が上手に話せて、地域日本人住民と会話や仲良く生活環境を作ろうとの意欲があった。 4. 和紙ちぎり絵や太極拳・切り絵などを広めたことで、日中両国の参加者から互いの伝統文化中のものを知って、好きになったと思う。 5. 和紙ちぎり絵を中国へ広めたことで、参加者たちの日本伝統文化に対する興味を呼び起こすきっかけになったと感じる。 6. 当会の会員と中国の中学生たちが作った折り鶴を共に展示することと「被爆都市」・「平和都市」広島を象徴する「折り鶴・広島3部作」・「ポップアップ切り絵(折り鶴)」をプレゼントしたことで、「ヒロシマの心」を伝えたと感じて、両国民が平和祈願・原爆絶滅の心を繋がつた。 対象者等の反響: 1. 「今後、毎年日中がお互いを訪問し、日中共同で大きな作品を製作してはどうでしょうか。」・「今後も益々にご活躍を期待しご発展を祈っています。」との声が聞こえてきた。 2. 中国帰国者は、もっと日本語を習って、発表させてくれるチャンスが増えてほしい。 3. 小学校から、また教えに来てくださいね!との声があった。 4. もっと沢山の折り鶴を作って、各国からの来賓にプレゼントして、「ヒロシマの心」をもっと広めようとの願いがあった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1. 当初の事業計画に沿って実施したもので、地域親睦や生活しやすい環境づくり及び異文化交流・伝承にはある程度役になったと思い、計画した内容より、もっと達成し、成功になったと思う。 2. 工夫した点としては、貴基金より助成金をいただいたので、どうしても背かないように、皆で一つに団結して精一杯やってきた。 3. 実施する場合は、熱心な方とちぎり絵講師たちから、折り鶴に使う材料及びちぎり絵教材・和紙・道具などを寄付して下さって、消耗品費を節約させてもらって助かった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 課題: 1 広島市で展示会やイベントを実施するとき、和紙ちぎり絵の体験コーナーも行った。 和紙と和紙ちぎり絵がどのようなものであるか、日本人の来場者がほとんど知らなくて、顔は不思議・好奇心に溢れていて、和紙をどうやってちぎって貼ることで、きれいな作品に作成するについて、もっと詳しく知りたいとの印象があった。 2 中国の美術の関係者及び受講者たちは、それまで触らなかった真新しい描く技術には興味を生じたが、紙の発祥地である中国には、「和紙はない」との寂しさは、和紙ちぎり絵を中国へ広めた時に、深く感じた。 3 当会が創作された「折り鶴・広島3部作」と「ポップアップ切り絵(折り鶴シリーズ)」で、原爆ドーム・原爆の子の像・慰霊碑と飛べるような折り鶴には、皆に注目され、その作り方を広く広めればと思う。 今後実施したい追加活動 1 平成30年度から、できるだけ国内外の広範囲の団体や学校と連携し、幅広い年齢層の人たちに伝統文化を続けて伝承し、核兵器廃絶に対する意欲を呼びかけるために、和紙ちぎり絵と折鶴を広めるブームができればと考える。 2 中国帰国者の大人たちには、もっと日本語を習って、もっと日本人と言葉で交流できるよう、頑張る。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子育てと健康と地域をつなぐ活動
②実施期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 30 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 笑顔つながり隊 (安芸区社協・阿戸矢野包括支援センター・矢野公民館・矢野福祉センター・矢野地区民生委員児童委員協議会・矢野町内会・子ども会育成連絡協議会ひろしまこども夢財団・フット・パソク広島あいあいねっと)
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ① 子育て・健康関連の学習 ② 地域のつながりをつくる居場所づくりボランティア養成 ③ 多世代住民との共助関係づくり・相互交流の機会創出 ④ 地域・こども食堂の開催 ⑤ 無料学習支援（宿題・課題おたすけ会） ⑥ 食育・季節の行事開催 ⑦ 行事内容については別紙・添付資料あり ○活動地域や会場 ・安芸区矢野にある空き家を拠点にした『矢野の家』 ・矢野公民館 ○対象者 ・近隣に住む乳幼児親子・小学生・中学生 ・多世代にわたる地域住民 ・会報誌・ブログ・報告会等で知った矢野近郊の方々 ○広報 ・会報紙『わたしらしさ』を毎月発行し、行事を告知 ・公民館・安芸区社協・阿戸矢野包括支援センター・福祉センター・安芸区役所・地域おこし推進課への案内・会報紙配布 ・ＪＲ矢野駅での会報紙掲示 ・ブログにて活動内容紹介・イベント案内 ・地元の連合町内会へ配布依頼し、回覧板・掲示板にて告知 ・広島市社協居場所づくり連絡会・安芸区ボランティア連絡会等での情報発信

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・いきいき健康体操をきっかけに週一回 30 名程度の高齢者が集まっている。 単に体操をするだけでなく、口腔ケアのお話会・脳トレセミナーを行うことで楽しみながら健康寿命を伸ばすという意識の向上、筋力の向上につながっている。 ・参加者の中から手伝いたいという声が出始めイベントや地域食地堂でのボランティア活動につながり、支えられる側ではなく担い手へと変わっている。活動を楽しみ、多世代での人と人のつながりを実感できることで元気になり、やりがいや活力を見出している。 ・地域・子ども食堂では食を通じた居場所となり、作る側・食べる側それぞれを楽しみに集まっている。フードバンク広島の提供食品を利用することで食品ロス削減活動を地域に発信できた。 ・子育てオープンスペースでは母親同士が顔なじみとなり、スタッフと共に子どもの成長を喜び合い気軽に相談しあっている。子育てを孤育てにしない居場所となっている。 ・一つ屋根の下に多世代が集うことで、言葉のやりとりから顔なじみとなり、子どもの成長を感じ健康を気遣い合う地域を身近に感じられるようになった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) <成功した点> ・多世代が交流する楽しさ・よさを来訪者に実感してもらうことができ、地域の居場所矢野の家の役割を地域の方々に知ってもらうことができています。 ・来訪者から賛同いただいたことで、ボランティア活動へつながり、活動を広げることができた。(矢野・地域子ども食堂) ・高齢者ボランティアがここに来る楽しみを実感し、イベントの日の役割を自ら見出し輝いて動ける居場所となっている。 ・独居等、地域で気になる高齢者に声をかけ、一緒に来訪し矢野の家での時間を過ごしている。 ・部屋貸して認知症カフェを行っていたことから、認知症を身近なものとしてとらえ誤解や偏見をなくすきっかけづくりとなった。 ・来訪者が担い手となり、イベントを開催できた。(子どもシェフ、多世代交流イベント)
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・子ども食堂へのイメージが、子どもの貧困として捉えられてしまい、参加しにくいという声も聴く。誰もが参加でき地域がつながる食堂へと理解を深めていきたい。 ・活動を整理し周知する為にホームページを制作し、求めている人に届くようにする。 ・他で活動している団体と連携し、それぞれのもつ良さを生かしながらつながり合うことで、活動をさらに充実させ市民活動のパワーアップを図る。 ～今後実施したい追加活動～ <子ども> ・地域子ども食堂の充実(朝ごはんの提供等、時間の幅を広げる) ・子ども無料塾(寺子屋)の開催(学習、創作、あそび体験・料理) ・一時託児(小学生まで) ・子育て中の母親・ひとり親支援、長期休みの子どもの居場所づくり <地域> ・多世代交流イベントを増やす。 ・矢野の家の取り組みとして認知症カフェを行う。 <高齢者> ・介護保険では補えない日常の困り事支援サービス(小さな困り事)を行い、より身近な地域の家としての役割をもつ。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	狩留家の町づくり
②実施期間	実施期間平成 29 年 5 月 15 日～平成 30 年 3 月 30 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：特定非営利活動法人 NPO 狩留家 共催：狩留家地区社会福祉協議会 後援：狩留家町内会、 連携した機関・団体：ココロザシ応援プロジェクト、ひろしま NPO センター
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ア) 手押し自動噴霧器を導入して「狩留家なす」の出荷率を改善 実施方法 今まで手動ポンプの肩掛け噴霧器で殺虫、殺菌をしていたが、自動噴霧器を購入でき、高齢者でも殺虫殺菌が楽にできるようになり出荷率が改善出来ました。 活動地域や会場 安佐北区狩留家町 会場 狩留家なす圃場 対象者 主には NPO 狩留家のなす圃場生産者、一部の狩留家なす生産者 (イ) JR 芸備線狩留家駅前に迎賓花壇を開園 実施方法 薦と雑草と雑木の畑地をほとんど人力で伐採し、ユンボ業者に根を掘り起こしていただき平地にして芝生と草花、芳香植物を植えました。 他の助成金が不十分で委託費が十分支払えなくなった分を、町民のボランティアで補いました。 活動地域や会場 JR 芸備線狩留家駅前 対象者 作業対象者 狩留家住民ボランティア活動者、ユンボ運行業者 花の鑑賞対象者 JR 狩留家駅利用者（狩留家の住民と外部からの来訪者）

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ア) 手押し自動噴霧器を導入して「狩留家なす」の出荷率を改善 自動噴霧器は圧力も強く、軽労働になったため高齢者でも十分な殺菌殺虫作業が可能になり、出荷率が改善され、収穫祭も実施できました。 収穫祭には 220 人が集まり、過疎の町狩留家への集客効果が出ると共に多くのソムリエの方々にご参加いただきました。多くの広島市民の皆様「狩留家なす」収穫祭に訪れていただき広島市に一番近い本物の田舎を満喫して頂くことが出来ました。広島市の特産品化に貢献出来ます。 イ) JR 芸備線狩留家駅前に迎賓花壇を開園 駅を降りておもてなしを感じる空間が出来ました。広島市に一番近い本物の田舎狩留家に花と緑で御もてなしをする迎賓ムードの町を演出できました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点) (ア) 手押し自動噴霧器を導入して「狩留家なす」の出荷率を改善 予想以上に軽労働化が促進され、後期高齢者の体力でも十分作業が可能になりました。生産農家の方に順に使用して頂いています。 (イ) JR 芸備線狩留家駅前に迎賓花壇を開園。 今までツタで覆われたジャングルのような空地进行造成費、芝張り費を節約する為に住民ボランティアで開墾し、芝生を植えこみ、花壇らしくなりました。達成感でいっぱいです。
今後の課題・展望	(ア) 手押し自動噴霧器を導入して「狩留家なす」の出荷率を改善 平成 30 年度からは NPO 狩留家の会員の全圃場の殺菌殺虫を当該噴霧器で共同作業を実施します。このことで、各農家の作業効率の改善と殺菌殺虫剤の量と企画の統一化が出来ます。良好な品質の「狩留家なす」の出荷は狩留家特産、広島の特産品化に一歩足を踏み出せます。⇒「狩留家なす収穫祭」を実施し、中山間地域・狩留家に顧客を呼び寄せます。狩留家で「狩留家なす」の料理が食べられる環境を整備します。 (イ) JR 芸備線狩留家駅前に「迎賓花公園」を開園。 芸備線狩留家駅を降り立ち、狩留家の街道に足を踏み込む交差点が、見違える様な花壇になりました。 a. ゆっくり休めるベンチと机を置いて団欒が出来るスペースにするとともに、白いフェンスで囲い、もう一歩ムードが盛り上がった迎賓花壇にしたい。 b. この駅前花壇の完成で、狩留家の旧街道の南北の両入口が花壇になりました。今後は点を線にするために、香木（金木犀、クチナシ、鰯梅、水仙、沈丁花）等の花を街道両サイドのご家庭に植えていただく。当面の苗と肥料の提供を行い、「緑と花と香りで歓待する」「おとぎ話の町・狩留家」をミニ演出します。 春には、多くの花や香りを楽しむ女性であふれる町づくりをします。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	牛田かうちゃんまつり・スタンプラリーの開催
②実施期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：牛田三学区活性化フォーラム 共催：広島光明学園、牛田ニュース、光友会、ふたば会他 後援：広島市東区役所、牛田学区社会福祉協議会、早稲田学区社会福祉協議会、公益財団法人広島市文化財団 牛田公民館 早稲田公民館、牛田商店街振興組合、牛田学区体育協会、牛田地区老人クラブ連合会、牛田連合青年会、広島市東消防団牛田分団、広島市東消防署、広島市東区スポーツセンター、広島女学院大学、比治山大学、比治山大学短期大学部、広島市立広島商業高等学校、朝日新聞広島総局、広島テレビ、ちゅびCOM ひろしま、中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーびー76.6MHz、広島県観光連盟、NHK 広島放送局、中国新聞社、読売新聞広島総局、産経新聞社
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 【実施方法、活動地域や会場、対象者、事業のアピールポイント（新たな視点、発想・工夫している点）など】 年1回、毎年3月にかうちゃんまつりを開催しています。会場も牛田小学校のグラウンド・体育館をメイン会場として、地域の方も入りやすい場所で開催しています。牛田三学区内の公民館や集会所、保育園や小中学校、高校、大学、商店（かうちゃん店舗）、スーパーなどにポスターの掲示やチラシを配布し、開催直前には新聞折込をして牛田三学区の方にかうちゃんまつり開催を周知しました。また、牛田三学区に隣接する町内やマスコミ各社にもチラシを配布して、牛田を知ってもらうきっかけとなる取り組みを行いました。 毎年、異なるテーマで工夫を凝らし、平成29年度は「オリンピック」「うまいもん」「防災」をテーマとして開催しました。「オリンピック」（モーリンピック）は平昌冬季オリンピックの盛り上がりを2020年の東京オリンピックに繋げる後押しになるように、「うまいもん」（うまもん）は、地域の各店舗による出店により、参加者に牛田のおいしいものを味わって頂きたいと企画しました。また、「防災」は平成26年8月20日の広島市土砂災害を受け、地域の皆さんと日頃から災害についての備えの大切さを考え、災害の防止に向けた様々な取り組みについて理解を深めて頂く機会になるような企画をし

	て、牛田の町や生活のあり方を考える機会となり、絆を大切に温かい心をもったまちに活性化し、楽しく、明るく、面白く、住みよい町づくりの促進を図る内容としました。
⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 多くの方が参加するかうちゃんまつりやスタンプラリーでは、参加者が店舗を知る機会になり、また店舗どうしで互いの情報交換をする場にもなりました。かうちゃんまつり、スタンプラリーが終わった後、かうちゃん店舗で買い物しよう、ご飯を食べようという声もあったと聞きました。 また、牛田地区は人口が増えているという結果は、かうちゃんまつりをはじめとする様々な行事や楽しいイベントがたくさんあり、魅力ある町として人気があるものと考えています。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・第6回牛田かうちゃんまつり(牛田かうちゃん・うまもん・モーリンピック・防災フェア)では昨年を上回る約3,500名にご来場いただき、来場者数については当初の目標(前年実績)を達成できました。 ・消防車、給水車展示や地震体験車コーナー、消火体験等で、防災に対する理解を深め、かうちゃん店舗による出店コーナーでは多くの店舗に出店頂き、「うまもん」のテーマにふさわしく、参加者に牛田の美味しいものを味わって頂きました。店舗だけでなく、地域の方から石焼き芋の出店や、保護者会、中学校同窓会からも出店され、地域全体で賑わうことができました。 ・ポスター掲示やチラシの配布、新聞折込の効果で牛田三学区内への周知はもちろんのこと、隣接する町内やマスコミ各社へのチラシ配布も効果があり、牛田を知ってもらった大きなきっかけとなったと思います。 ・まつりに向けて事前に行われるスタンプラリーも、子どもたちが地図を見ながら楽しそうに牛田の神社仏閣やかうちゃん店舗をまわる姿が町中に見受けられ、明るく楽しい町づくりの促進に役立てることができました。 また、この度のスタンプラリーでは、初めて1人5枚までと枚数制限を行ないましたが、前回同様約25%(約1,500枚)の回収率が達成できたことは、地域がスタンプラリーの開催を楽しみしているということを改めて実感しました。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 牛田かうちゃんまつりやスタンプラリーは、牛田三学区内の多くの子ども達、地域の方々に参加していただき大変賑わいましたが、その他の地域にもポスターの掲示やチラシを配布して更に牛田の周知を図って行こうと思います。 来場された方に、活気ある牛田地区の雰囲気を感じてもらい、また来てみたいと思っていただけるよう明るく楽しいイベントの開催を継続していきたいと思っています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	MIZBE活性化大作戦
②実施期間	2017年 4月 1日 ～ 2018年 3月 24日
③実施主体	主催 ひろしま SUP クラブ 連携 フラワーフェスティバル実行委員会 社団法人広島青年会議所 横川商店街 広島市中心部 えんこうさん実行委員会 放課後デイサービスミリミリー 後援 国土交通省 広島市
④内 容	5/3 フラワーフェスティバルMIZBEproject 広島青年会議所 川のパレード、体験会、SUPレース等 154名 6/13 日赤救急法基礎講座、水上安全講習会 14名 6/19 大崎權伝馬 ひろしまSUPクラブ新旧漕ぎもの交流会 18名 8/6 楠木大雁木清掃 11名 8/6 太田川灯籠流し灯籠誘導協力 中振連 13名 8/11 横川 川 夏フェスティバル” ガワフェス” SUP体験会 横川商店街 体験者90名 8/24, 28 夏休み子供SUP体験会(発達障害児) 41名 放課後デイサービス ミリミリー 10/29 横川ゾンビナイト 横川商店街 雨天のため水上イベント中止 4名 11/23 The Hiroshima Music Boat 中振連 11名 3/18 楠木大雁木清掃 11名 3/24 えんこうさん えんこうさん実行委員会 28名 3/26 HIROSHIMA SUP CITY SUP MAP完成 1000部

⑤実施効果	フラワーフェスティバルにおいては昨年を上回る参加者があり関東や九州からもありました。レースなども開催したことで新しい川の使い方を体験していただきました。また6月の漕ぎもの交流会では大崎權伝馬と新旧の文化が原爆ドームの前で融合し来場者を楽しませました。8月には昨年は単独で行った太田川の SUP 体験会を横川商店街と一緒にいき、ガワフェスで中心的な役割を果たしました。横川の魅力の再発見と地域活性化に役立てたのではないかと思います。8/6には中振連さんから灯籠流しの灯籠の誘導、消火の協力依頼を受けボランティアを招集。重労働でしたが参加者はみな平和への思いを強く持てたことは大きな収穫でした。3月のえんこうさんでもこれから発展していくお祭りに最初からかかわらせて頂いたことは認知を高める上でも大きな成果です。最後にHiroshima SUP City Map が完成し、よりわかりやすく広島が日本で最も SUP に適した街であること、また街の新しい魅力を伝えることができるようになりました。
⑥目的の達成状況	当初予定していなかったイベントが組み込まれたことでスケジュールが変更されるなどありましたが、いずれのイベントも定員以上の集客があり大きな反響と手応えがあり認知度の高まりを感じることができました。中振連や横川商店街、えんこうさん実行委員会などの地域や団体と協力して行うことができたことが大きく普及発展にむけて踏み出せた感がありました。
⑦今後の課題・展望	ガワフェスでは外国人体験枠をもうけたにもかかわらず思った集客ができませんでした。広く発信していただく為に集客の仕方が課題となりました。 インバウンドにむけても広島の街をあたらしい角度から体験していただき。街の中心的なアクティビティとして広島の魅力を発信していけるように展開していきたいと思います。ゲストハウスやホテルとも連携して広島の回遊時間を増やし、満足度を高める活動を行います。 まずは今年のフラワーフェスティバルでは外国人体験枠をもうけ再チャレンジしたいと思います。 また、市内一周やスプリントレース開催にむけてスポンサー獲得の活動を精力的に行っていかなければなりません。 さらには普及の底辺となる体験会においては子供たちに海と同じように太田川でも遊べるんだという経験をしてもらい記憶に残してもらおうと同時に川や海での安全な遊び方の講習会も行い事故防止にも努めてきたいと思います